

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------|----|--|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 【I 理念に基づく運営】 | | | | | |
| 1. 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 一人ひとりの「その人らしさ」を大切に し、常に相手の立場にたって考え、ケアを する。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組 んでいる | 法人であるMCS(株)の理念を毎朝、申 し送り時唱和をしている。また、毎月の全 体ミーティングの時に唱和をし、「その人 らしい」とは何かを考えて、ケアにあたっ ている。 | | |
| 3 | — | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした 理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでい る | 公民館行事への参加、運営推進会議等を通 し、家族・町内会長・民生委員・公民館の 方にホームの理念、取り組み(活動)を報 告し、理解してもらえるよう取り組んでい る。 | | |
| 2. 地域との支え合い | | | | | |
| 4 | — | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽 に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努 めている | 日々の散歩時、挨拶を交わしたり、野菜・ 花のおすそ分け、買い物と一緒に掛ける などの付き合いが出来ている。また、集會 所を併設しており、地域に開放している。 | | |
| 5 | 3 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入 会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努 めている | 地域の一斉清掃・公民館行事への参加・運 動会への参加、応援・地域と合同の夏祭り などを通し、交流の機会をもち交流を深め ている。 | | |
| 6 | — | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、 地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組 んでいる | 認知症に関する電話での問合せ、来訪によ る相談に応じている。その他、ホーム見 学、実習生・研修生・ボランティアの受け 入れも行っている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|---|---|-------------------------|------------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 7 | 4 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価内容の出来ていない点をホーム全体の目標に掲げ、改善に向けて取り組んでいる。 | ○ | 一部改善できていない点は、ユニット目標に掲げ、改善に取り組んでいる。 |
| 8 | 5 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホームの活動状況報告の後、家族・地域の方から質問・意見をいただき、全家族・全職員へ周知しサービス向上に活かしている。 | | |
| 9 | 6 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 介護保険更新代行、訪問調査表の開示・受領代行や事故報告書をその都度市町に持って行き、訪問の機会を持っている。また、介護研修生の実習を受け入れを行っている。 | | |
| 10 | 7 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 地域権利擁護事業・成年後見制度の外部研修へ参加し、ホーム内研修でも全職員へ周知している。制度が必要な方には、パンフレットを用意し説明、アドバイスしている。 | | |
| 11 | — | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修へ参加し、虐待についての情報を学んでいる。また、ホーム内の研修会で取り組んでいる。さらに、ホーム内で事故対策・身体拘束委員会を設置し、虐待予防・防止に努めている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 12 | — | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居契約時、書面・口頭で説明し、不明な点は納得していただけるまで説明している。入居中、疑問点が出た場合もその都度説明している。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------|----|---|--|-------------------------|-----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 13 | — | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年に1回、本部が家族に直接アンケートを 配布し意見を聴いている。その結果を各 ホームに通知している。意見等は職員全員 に周知し即取り組みようになっている。 利用者には、1対1の機会を作り意見を聴 いている。 | ○ | 現在アンケート調査中。 結果は運営推進会議を通して報告する。 |
| 14 | 8 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる | 日々の様子・変化があった時などは状況に 応じて、電話・面会時・ホーム便り・電子 メールなどで状況を正しく把握している職 員が伝えている。 | | |
| 15 | 9 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時、家族会などで、意見を聞く機会を 設けている。苦情などについては、ホーム 玄関に苦情受付窓口の案内を表示し意見箱 を設置している。また、苦情についてはマ ニュアル作成し迅速に対応できるようにし ている。家族代表者を選出し家族間の意見 交換も行われている。 | | |
| 16 | — | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている | ホーム全体ミーティング・ユニットミー ティングで職員が意見を言える機会を設け ており、意見・要望に対しては、すぐに反 映している。また、個別でリーダー・管理 者と話す機会を設けている。 | | |
| 17 | — | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている | 月末に1ヶ月分の勤務表を作成し、外出、 行事など人手が必要な場合、人数を調整し ている。また、利用者の状態に合わせ勤務 変更を行い、必要な人数を確保できてい る。 | | |
| 18 | 10 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動は、基本的にはしない方針であるが、 やむを得ない事情に限り、利用者に不安を与 えないよう最小限の人数で行うようにして いる。また、離職に伴う人数調整も早くか ら求人をかけ、調整している。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 19 | 11 | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。採用基準は、高齢者に対する考えを基準にしている。職員配置は、経験年数・能力を見極め、両ユニットのバランスが取れるよう配置している。 | | |
| 20 | 12 | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 行政が実施する、介護支援専門員現任研修・認知症介護実践者研修・管理者研修・身体拘束ゼロ作戦コース等に、積極的に参加している。 | | |
| 21 | 13 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修は、職員自らが自由に選んで参加できるように、研修内容のパンフレットを各ユニット毎に置いている。研修費、交通費は会社負担とし、勤務時間として認めている。 内部研修は、毎月行っている。 | | |
| 22 | 14 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福岡県高齢者グループホーム協議会に入会しており、活動には必ず参加している。さらに、同業者間での勉強会やお互いに訪問をしあって向上に向けて取り組んでいる。 | | |
| 23 | — | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 個別に面談する機会を設けている。また、24時間、いつでも連絡できるように周知させている。 管理者・職員同士の親睦を図るために食事会、飲み会をしている。 | | |
| 24 | — | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 人事評価のマニュアルに沿って評価し、段階別に昇給がある。 契約社員から正社員登用の道がある。 本人の希望があれば、全国に転勤可能であり、昇格もある。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|---|-------------------------|---|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 25 | — | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入居前は、利用者からの相談より家族が介護に追い込まれた状態で相談に来ることがほとんどであるが、入居前には必ず訪問して本人自身からと話をきいている。 | | |
| 26 | — | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入居相談時は必ずホームに来ていただいている。家族の不安やホームに求めていること等、時間をかけて聴いている。 | | |
| 27 | — | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族の状況を聴き助言を行っている。必要としていることがあれば紹介をしている。 | | |
| 28 | 15 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 今まで使っていた寝具やタンス、箸、湯呑等を持って来ていただき、本人の気持ちが落ち着けるように工夫をしている。他の利用者と話ができるように職員が雰囲気づくりをしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 29 | 16 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 個々の得意なことや残されている力を見出し、活躍していただいている。(掃除、調理、洗濯、縫物、書き物等) | ○ | もっと、活躍の場を提供できるよう得意なこと・出来ること・出来そうなことの把握に努めていきたい。 |
| 30 | — | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 誕生会、行事、家族会等様々な機会をつくり、また遠方に住んでおられる家族とは、電話や便りで交流し、常に家族と相談をしながら本人を支えている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|--|---|-------------------------|---|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 31 | — | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 面会時、電話、電子メール、ホーム便り等で近況(身体状態、入居者様の要望)を報告し、家族とご本人が疎遠にならないよう支援している。 | | |
| 32 | — | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 長年通われていた美容室の利用、家族・友人との電話、郵便物のやりとり等の支援を行っている。また、友人の面会・郵便物については、家族に了承を得たり連絡している。 | | |
| 33 | — | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 共通の話題・年代の入居者様同士、交流を持てるよう必要に応じ職員が仲介に入っている。世話好きな方には、その方の得意な点を踏まえ、入居時緊張のある入居者に対して対応していただくなど、入居者様の気持ちを引き上げていただけている。 | | |
| 34 | — | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 退去された後も、ご家族との交流があり電話やホームへ遊びに来て下さったり、相談に応じている。 | | |
| 【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】 | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 35 | 17 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時、介護計画見直し時、入居者様・家族様に意見・要望を確認している。両者の意見が異なる場合もあるが、入居者様を主体に検討しケアに反映させている。意思表示が困難な方については、些細な言動・家族様からの情報により、把握に努めている。 | ○ | 今後も、意思表示が困難な方の意向を把握するため、関わりを多く持ち職員の気づきを活かしケアに反映させていきたい。 |
| 36 | — | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に基本情報・バックグラウンド・アセスメントなどにより、これまでの暮らし、サービス利用内容を把握している。入居中も、ご本人・家族様との会話から情報把握に努めている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|----|---|---|-------------------------|---|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 37 | — | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 入居者様一人一人のペースを考慮し、生活リズム把握している。出来ること・出来ないことを見極め、出来ることへお誘いしている。 | ○ | 今後も、出来ることの把握を継続していきたい。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 38 | 18 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 入居者様・家族様より、介護計画作成時、日々の面会時・電話、定期的な見直しの際、要望・意見をお聞きし計画を作成している。 | | |
| 39 | 19 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 入居者様・家族様より、介護計画作成時、日々の面会時・電話、定期的な見直しの際、要望・意見をお聞きし計画を作成している。 | | |
| 40 | — | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別にファイルを用意し、ケアプランをもとにケアの状況・結果・ケアの工夫（気づき）・生活の様子・会話内容など記録している。また、ケア日報にも記録を残している。勤務開始前、ケア日報・申し送りノートの確認・口頭での申し送りで情報の共有を図っている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 41 | 20 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 看護師が常駐しており、かかりつけ医との連携が密に行われている。状態に応じて受診をする場合は、職員が付き添っている。また、入院した場合は早期退院に向けた話し合いをしている。重度化した場合は、本人、家族、医師と話し合いながら、方針を決めている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 42 | — | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 民生委員、警察、消防、公民館等と運営推進会議・消防訓練・公民間行事への参加などの機会に、意見交換を行い、協力しながら支援している。 | ○ | 入居者様が、地域での暮らしを継続していけるよう、地域とのつながりを今後も一層強化していきたい。 |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------|----|--|---|---------------------|--|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 43 | — | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている | 他のケアマネージャーと連携を取っている。入居者・家族様のご希望により訪問理容の利用している。 | | |
| 44 | — | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進会議をきっかけに、地域包括支援センターのケアマネージャーが参加して下さり、情報交換が行えている。 | ○ | 困難事項やホーム内での解決できない問題について地域包括支援センター協働しながら支援していきたい。 |
| 45 | 21 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。大半の方が、訪問診療。入居前からのかかりつけ医等、病院受診については、家族と連絡調整し、家族様が付添できない場合は、職員が代行している。 | | |
| 46 | — | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 主治医が認知症に知見が深い。定期的な診察を行い入居者の状態を熟知しており、適宜指示や助言を受けている。 | | |
| 47 | — | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 職員である看護師に、24時間相談でき健康管理や医療活用の支援ができています。 | | |
| 48 | — | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 家族とともに積極的に、医療関係者に早期退院に向けた相談を行っている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|--|--|---------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 49 | 22 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居時より重度化した場合・終末期についての話し合いは行っているが、状態が変化した場合、必要に応じその都度話し合いを行い方針を決めている。情報は家族・かかりつけ医・職員で共有している。 | | |
| 50 | — | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 看護師を中心に、ホームのできること・できないことを見極め、かかりつけ医の指示のもと支援している。また、今後の方針についても、必要時その都度検討している。 | | |
| 51 | — | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族・ケアの関係者と情報交換を十分に行い、混乱のないよう職員の付き添い・見守りなどの介助を厚く行っている。 | | |
| 【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 52 | 23 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 入居者様の誇りやプライバシーに配慮した声かけ、対応に心がけている。記録などの個人情報、棚に収納し他の家族、外部の訪問者の目につかないようにしている。また、プライバシーに関することは話さないようにしている。 | | |
| 53 | — | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、複数の選択枠を提案して一人ひとりの入居者が自分で決める場面をつくり支援している。 | | |
| 54 | 24 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者一人ひとりのペース・希望・気分・体調に合わせて支援しているが、勤務体制などから業務優先になってしまうことがある。 | ○ | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 55 | — | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 身だしなみ・おしゃれについては、入居者一人ひとりの好み・力に合わせた支援を行っている。又、入居者・家族の希望により、なじみの美容室を利用したり、訪問美容している。 | | |
| 56 | 25 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 日常的に調理・お茶入れ・配善・下善・後片け・テーブル拭きなど、役割(好み、力に合わせて)を通じて関わりを持って頂いている。又、職員と入居者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事できるよう雰囲気作りに努めている。 | | |
| 57 | — | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | お酒(晩酌)・たばこ・飲み物・おやつ等個々の状況に合わせて楽しんでいただいている。 | | |
| 58 | — | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄チェック表を活用、時間、習慣などを把握し、トイレ誘導を行いトイレで排泄していただけるよう支援している。 | | |
| 59 | 26 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 出来る限り、その方の希望、状況に応じているが、時間帯、勤務体制によっては出来ないことがある。 | ○ | |
| 60 | — | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくりと休息がとれるよう支援している。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 61 | 27 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 入居者それぞれに合った役割・楽しみごと・趣味・嗜好など、その人らしさを大切に支援している。 | | |
| 62 | — | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の協力を得て、小額のお金持っている入居者や、ホームが家族よりお金預り管理している入居者等も、買い物する際は自分で、払っていただけるようにお金を手渡しするなど工夫している。 | | |
| 63 | 28 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物、ドライブ等に出掛けている。 | | |
| 64 | — | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 普段のかかわりの中で、ご本人の希望されるところなど、把握に努めていますが、希望に沿えていないことが多いのが現状です。 | ○ | 希望に沿えるよう、ご家族の協力等を得て実現したい。 |
| 65 | — | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りや職員からの声かけを行うと共に、リビング、居室など話しやすい場の提供をしている。 | | |
| 66 | — | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している | 面会時間は設けてなく、訪問時にはリビング、居室など要望に合わせて案内し会話を楽しんで頂いている。又、寝具等を準備しており、宿泊可能な体制である。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|----|---|---|-------------------------|--|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 67 | — | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての外部研修、ホーム内勉強会など実施し、身体拘束のないケアに取り組んでいるが、スピーチロックを無意識に行うことがまれにある為、拘束になっていないか、常に確認、意識しながらケアに努めている。 | ○ | 職員同士意識、技術の向上を図り、身体拘束のないケアを今後も継続していくよう努めたい。 |
| 68 | 29 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関の鍵については、家族会で話し合いを持ってもらい、「安全が第一」と全家族より要望があり施錠している。入居者が外出したい様子、希望される場合は止めるのではなく、さりげなく声をかけて一緒に外出するなど、安全面に配慮しながら支援している。 | | |
| 69 | — | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 職員は、入居者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、全員の状況を把握するように努めている。昼夜問わず、所在、様子を確認すると共に状態に合わせて対応している。 | | |
| 70 | — | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 入居者の状態に合わせて保管管理が必要なもの、入居者が使用する際に、注意が必要ものに分けて管理している。例えば、爪切り、はさみなど。 | | |
| 71 | — | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 一人ひとり状態から予測される危険を検討し、未然に防ぐための工夫をしている。例えば、誤嚥のリスクが高い入居者の食事支援や服薬方法や、転倒の危険性のある方には、起床センサーを設置している。 | | |
| 72 | — | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 急変時マニュアル、勉強会を通じて訓練しているが、全員熟知しているとはいえない。 | ○ | 勉強会など、通じて意識つけを行う。 |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|--|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 73 | 30 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署等の協力を得て、定期的に防災訓練を行っている。又、非常用の食料・備品も確保している。 | | |
| 74 | — | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 入居時にリスクについての説明はしているが、身体機能低下によるリスク等は、随時家族へ報告している。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 75 | — | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 看護師、かかりつけ医に報告し、早期発見、予防に努めている。状態を記録に残し情報を共有している。 | | |
| 76 | — | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤情報・チェック表など活用している。副作用に対しては、全員理解してるとはいえない。症状の変化については、その都度看護師に報告している。 | ○ | 勉強会など通じて、理解を深めたい。 |
| 77 | — | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 繊維質の多い食材などを多く採り入れている。体操・散歩・家事活動等身体を動かす機会を個々の状態にあわせて設けている。 | | |
| 78 | — | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 起床時・毎食後に、個々の状態や力に応じた支援をしている。又、定期的に歯科医院(歯科医指導により)にて歯石除去を行っている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 79 | 31 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士により栄養バランスはとれている。水分量については、1日1000~1500mlとっていただけるよう考慮、支援している。又、看護師指示により必要に応じ水分チェック表にて管理、対応している。 | | |
| 80 | — | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 感染症マニュアルに従って実践している。手洗い、うがいの励行やインフルエンザ予防接種など予防に努めている。 | | |
| 81 | — | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 食中毒予防マニュアルに従って、食中毒の予防に努めている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 82 | — | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 玄関、駐車場までの間は、スロープ・手すりを設置し安全に配慮している。また、ホーム駐車場に大き目の看板を設置により認識できる。 | | |
| 83 | 32 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 廊下やリビングなどの共用空間には、花、写真、絵画など、家庭的な雰囲気を有している。五感や季節感を意識的に採り入れられるよう工夫している。 | | |
| 84 | — | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 裏庭に畑・芝生・木・花を植えており、入居者がいつでも出入りできるようにしている。散歩・洗濯を干したりいつでも休憩できるようにベンチを置いている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|--|-------------------------|---|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 85 | 33 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具、仏壇を持ち込んでもらったり、思い出の品、写真など生活習慣を大切にしたいその人らしい居室作りを行っている。 | ○ | 居室作りが不十分な部屋もある為、今後も本人・家族と相談しながら本人が居室で居心地良く過ごせるよう工夫していきたい。 |
| 86 | — | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 換気は窓を開けたり、換気扇にて毎日行っている。外気との温度差がある場合には、温度計と入居者の様子をみながら調節している。空気清浄機、加湿器など必要に応じて活用している。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | | |
| 87 | — | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの移住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。 | | |
| 88 | — | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況にあわせて環境整備に努めている。 | | |
| 89 | — | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 庭に花を植えたり、畑のスペースを確保し、利用者が日常的に楽しみながら活動できるような環境を作っている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | |
|------------------------|----|--|------------------|--------------|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | |
| V サービスの成果に関する項目 | | | | |
| 90 | — | ○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 91 | — | ○利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | | ③たまにある |
| | | | | ④ほとんどない |
| 92 | — | ○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | | ④ほとんどいない |
| 93 | — | ○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | | ④ほとんどいない |
| 94 | — | ○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | | ④ほとんどいない |
| 95 | — | ○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | | ④ほとんどいない |
| 96 | — | ○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | | ④ほとんど掴んでいない |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | | | |
|------|----|--|------------------|--------------|--|--|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | | | |
| 97 | — | ○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と | | |
| | | | | ②家族の2/3くらいと | | |
| | | | | ③家族の1/3くらいと | | |
| | | | | ④ほとんどできていない | | |
| 98 | — | ○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている | ○ | ①ほぼ毎日のように | | |
| | | | | ②数日に1回程度 | | |
| | | | | ③たまに | | |
| | | | | ④ほとんどない | | |
| 99 | — | ○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている | | |
| | | | | ②少しずつ増えている | | |
| | | | | ③あまり増えていない | | |
| | | | | ④全くいない | | |
| 100 | — | ○職員は、生き生きと働いている | ○ | ①ほぼ全ての職員が | | |
| | | | | ②職員の2/3くらいが | | |
| | | | | ③職員の1/3くらいが | | |
| | | | | ④ほとんどいない | | |
| 101 | — | ○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が | | |
| | | | | ②利用者の2/3くらいが | | |
| | | | | ③利用者の1/3くらいが | | |
| | | | | ④ほとんどいない | | |
| 102 | — | ○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が | | |
| | | | | ②家族等の2/3くらいが | | |
| | | | | ③家族等の1/3くらいが | | |
| | | | | ④ほとんどできていない | | |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・オープン当初から家族会を開催している。年度ごとに代表者を決め、年間行事や運営推進会議には両ユニットの代表者が集まり、職員と共に内容を検討し家族の皆様との架け橋になっていただいている。
- ・誕生会は、一人ひとりその人の誕生日に家族とともにお祝いをしているので、家族との連携がとれている。
- ・地域との交流が盛んである。その中でも1番なのは、夏祭りである。毎年、地域の子供会、町内会有志、家族と合同で開催している。地域の方が多数参加されるため、ホームへの理解が得やすく、散歩等で会ったときは声をかけてくださるようになった。
- ・看護師が常駐しているので、日常の健康管理ができており、かかりつけ医との連携が密に行われているので、早期発見できるので、入院や感染症に罹患することが非常に少ない。
- ・体調や生活習慣にあわせて、そのつど食事のメニューを変えて柔軟に対応している。

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------|----|--|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 【I 理念に基づく運営】 | | | | | |
| 1. 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 申し送り時に、唱和して理念を共有している。又、ユニット独自の理念を作り、実践に向けて日々取り組んでいる。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 法人であるMCS(株)の理念を毎朝、申し送り時唱和をしている。また、毎月の全体ミーティングの時に唱和をし、「その人らしい」とは何かを考えて、ケアにあたっている。 | | |
| 3 | — | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 公民館行事への参加、運営推進会議等を通し、家族・町内会長・民生委員・公民館の方にホームの理念、取り組み(活動)を報告し、理解してもらえるよう取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支え合い | | | | | |
| 4 | — | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 日々の散歩時、挨拶を交わしたり、野菜・花のおすそ分け、買い物と一緒に出掛けるなどの付き合いが出来ている。また、集会所を併設しており、地域に開放している。 | | |
| 5 | 3 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の一斉清掃・公民館行事への参加・運動会への参加、応援・地域と合同の夏祭りなどを通し、交流の機会をもち交流を深めている。 | | |
| 6 | — | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 認知症に関する電話での問合せ、来訪による相談に応じている。その他、ホーム見学、実習生・研修生・ボランティアの受け入れも行っている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 7 | 4 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価内容の出来ていない点をホーム全体の目標に掲げ、改善に向けて取り組んでいる。 | | |
| 8 | 5 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホームの活動状況報告の後、家族・地域の方から質問・意見をいただき、全家族・全職員へ周知しサービス向上に活かしている。 | | |
| 9 | 6 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 介護保険更新代行、訪問調査表の開示・受領代行や事故報告書をその都度市町に持って行き、訪問の機会を持っている。また、介護研修生の実習を受け入れを行っている。 | | |
| 10 | 7 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 地域権利擁護事業・成年後見制度の外部研修へ参加し、ホーム内研修でも全職員へ周知している。制度が必要な方には、パンフレットを用意し説明、アドバイスしている。 | | |
| 11 | — | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修へ参加し、虐待についての情報を学んでいる。また、ホーム内の研修会で取り組んでいる。さらに、ホーム内で事故対策・身体拘束委員会を設置し、虐待予防・防止に努めている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 12 | — | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居契約時、書面・口頭で説明し、不明な点は納得していただけるまで説明している。入居中、疑問点が出た場合もその都度説明している。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------|----|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 13 | — | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 評価内容の出来ていない点をホーム全体の 目標に掲げ、改善に向けて取り組んでいる。 。 | | |
| 14 | 8 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる | 誕生会、行事、家族会等様々な機会をつく り、また遠方に住んでおられる家族とは、 電話や便りで交流し、常に家族と相談をし ながら本人を支えている。 | | |
| 15 | 9 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会では、職員は席をはずして家族同士 で話し合ってもらう時間を取り、意見や苦 情等を代表者から伝えてもらい改善に努め ている。 | | |
| 16 | — | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている | ホーム全体ミーティング・ユニットミー ティングで職員が意見を言える機会を設け ており、意見・要望に対しては、すぐに反 映している。また、個別でリーダー・管理 者と話す機会を設けている。 | | |
| 17 | — | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている | 入居者の状態にあわせたシフト作りをして いる。出勤時間の変更等。 | | |
| 18 | 10 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 利用者、家族への信頼関係を築くため にも、なじみの職員が対応することが重要と 考えており、異動や離職がやむをえない場 合も、その時期や引継ぎの面で最善の努力 をしている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 19 | 11 | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。採用基準は、高齢者に対する考えを基準にしている。職員配置は、経験年数・能力を見極め、両ユニットのバランスが取れるよう配置している。 | | |
| 20 | 12 | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 行政が実施する、介護支援専門員現任研修・認知症介護実践者研修・管理者研修・身体拘束ゼロ作戦コース等に、積極的に参加している。 | | |
| 21 | 13 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修は、職員自らが自由に選んで参加できるように、研修内容のパンフレットを各ユニット毎に置いている。研修費、交通費は会社負担とし、勤務時間として認めている。 内部研修は、毎月行っている。 | | |
| 22 | 14 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福岡県高齢者グループホーム協議会に入会しており、活動には必ず参加している。 さらに、同業者間での勉強会やお互いに訪問をしあって向上に向けて取り組んでいる。 | | |
| 23 | — | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 個別に面談する機会を設けている。 また、24時間、いつでも連絡できるように周知させている。 管理者・職員同士の親睦を図るために食事会、飲み会をしている。 | | |
| 24 | — | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 人事評価のマニュアルに沿って評価し、段階別に昇給がある。 契約社員から正社員登用の道がある。 本人の希望があれば、全国に転勤可能であり、昇格もある。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 25 | — | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入居前は、利用者からの相談より家族が介護に追い込まれた状態で相談に来ることがほとんどであるが、入居前には必ず訪問して本人自身からと話をきいている。 | | |
| 26 | — | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入居相談時は必ずホームに来ていただいている。家族の不安やホームに求めていること等、時間をかけて聴いている。 | | |
| 27 | — | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族の状況を聴き助言を行っている。必要としていることがあれば紹介をしている。 | | |
| 28 | 15 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 今まで使っていた寝具やタンス、箸、湯呑等を持って来ていただき、本人の気持ちが落ち着けるように工夫をしている。他の利用者と話ができるように職員が雰囲気づくりをしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 29 | 16 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 個々の得意なことや残されている力を見出し、活躍していただいている。(掃除、調理、洗濯、縫物、書き物等) | | |
| 30 | — | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 誕生会、行事、家族会等様々な機会をつくり、また遠方に住んでおられる家族とは、電話や便りで交流し、常に家族と相談をしながら本人を支えている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 31 | — | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 面会時、電話、電子メール、ホーム便り等で近況(身体状態、入居者様の要望)を報告し、家族とご本人が疎遠にならないよう支援している。 | | |
| 32 | — | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 長年通われていた美容室の利用、家族・友人との電話、郵便物のやりとり等の支援を行っている。また、友人の面会・郵便物については、家族に了承を得たり連絡している。 | | |
| 33 | — | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 共通の話題・年代の入居者様同士、交流を持てるよう必要に応じ職員が仲介に入っている。世話好きな方には、その方の得意な点を踏まえ、入居時緊張のある入居者に対して対応していただくなど、入居者様の気持ちを引き上げていただけている。 | | |
| 34 | — | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 退去された後も、ご家族との交流があり電話やホームへ遊びに来て下さったり、相談に応じている。 | | |
| 【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】 | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 35 | 17 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時、介護計画見直し時、入居者様・家族様に意見・要望を確認している。両者の意見が異なる場合もあるが、入居者様を主体に検討しケアに反映させている。意思表示が困難な方については、些細な言動・家族様からの情報により、把握に努めている。 | | |
| 36 | — | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に基本情報・バックグラウンド・アセスメントなどにより、これまでの暮らし、サービス利用内容を把握している。入居中も、ご本人・家族様との会話から情報把握に努めている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 37 | — | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 入居者様一人一人のペースを考慮し、生活リズム把握している。出来ること・出来ないことを見極め、出来ることへお誘いしている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 38 | 18 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 入居者様・家族様より、介護計画作成時、日々の面会時・電話、定期的な見直しの際、要望・意見をお聞きし計画を作成している。 | | |
| 39 | 19 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 入居者様・家族様より、介護計画作成時、日々の面会時・電話、定期的な見直しの際、要望・意見をお聞きし計画を作成している。 | | |
| 40 | — | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別にファイルを用意し、ケアプランをもとにケアの状況・結果・ケアの工夫（気づき）・生活の様子・会話内容など記録している。また、ケア日報にも記録を残している。勤務開始前、ケア日報・申し送りノートの確認・口頭での申し送りで情報の共有を図っている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 41 | 20 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 看護師が常駐しており、かかりつけ医との連携が密に行われている。状態に応じて受診をする場合は、職員が付き添っている。また、入院した場合は早期退院に向けた話し合いをしている。重度化した場合は、本人、家族、医師と話し合いながら、方針を決めている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 42 | — | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 民生委員、警察、消防、公民館等と運営推進会議・消防訓練・公民間行事への参加などの機会に、意見交換を行い、協力しながら支援している。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 43 | — | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている | 他のケアマネージャーと連携を取っている。入居者・家族様のご希望により訪問理容の利用している。 | | |
| 44 | — | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進会議をきっかけに、地域包括支援センターのケアマネージャーが参加して下さり、情報交換が行えている。 | | |
| 45 | 21 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。大半の方が、訪問診療。入居前からのかかりつけ医等、病院受診については、家族と連絡調整し、家族様が付添できない場合は、職員が代行している。 | | |
| 46 | — | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 主治医が認知症に知見が深い。定期的な診察を行い入居者の状態を熟知しており、適宜指示や助言を受けている。 | | |
| 47 | — | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 職員である看護師に、24時間相談でき健康管理や医療活用の支援ができています。 | | |
| 48 | — | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 家族とともに積極的に、医療関係者に早期退院に向けた相談を行っている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 49 | 22 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居時より重度化した場合・終末期についての話し合いは行っているが、状態が変化した場合、必要に応じその都度話し合いを行い方針を決めている。情報は家族・かかりつけ医・職員で共有している。 | | |
| 50 | — | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 看護師を中心に、ホームのできること・できないことを見極め、かかりつけ医の指示のもと支援している。また、今後の方針についても、必要時その都度検討している。 | | |
| 51 | — | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族・ケアの関係者と情報交換を十分に行い、混乱のないよう職員の付き添い・見守りなどの介助を厚く行っている。 | | |
| 【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 52 | 23 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 入居者様の誇りやプライバシーに配慮した声かけ、対応に心がけている。記録などの個人情報は、棚に収納し他の家族、外部の訪問者の目につかないようにしている。また、プライバシーに関することは話さないようにしている。 | | |
| 53 | — | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの入居者が自分で決める場面をつくり支援している。 | | |
| 54 | 24 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者一人ひとりのペース・希望・気分・体調に合わせて支援しているが、勤務体制などから業務優先になってしまうことがある。 | ○ | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 55 | — | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 身だしなみ・おしゃれについては、入居者一人ひとりの好み・力に合わせた支援を行っている。又、入居者・家族の希望により、なじみの美容室を利用したり、訪問美容している。 | | |
| 56 | 25 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 日常的に調理・お茶入れ・配善・下善・後片け・テーブル拭きなど、役割(好み、力に合わせて)を通じて関わりを持って頂いている。又、職員と入居者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事できるよう雰囲気作りに努めている。 | | |
| 57 | — | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | お酒(晩酌)・たばこ・飲み物・おやつ等個々の希望、状況に合わせて楽しんでいただいている。 | | |
| 58 | — | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄チェック表を活用、時間、習慣などを把握し、トイレ誘導を行いトイレで排泄していただけるよう支援している。 | | |
| 59 | 26 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 出来る限り、その方の希望、状況に応じているが、職員の勤務体制によっては出来ないことがある。 | ○ | |
| 60 | — | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくりと休息がとれるよう支援している。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 61 | 27 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 入居者それぞれに合った役割・楽しみごと・趣味・嗜好など、その人らしさを大切に支援している。 | | |
| 62 | — | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の協力を得て、小額のお金持っている入居者や、ホームが家族よりお金預り管理している入居者等も、買い物する際は自分で、払っていただけるようにお金を手渡しするなど工夫している。 | | |
| 63 | 28 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物、ドライブ等に出掛けている。 | | |
| 64 | — | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 普段のかかわりの中で、ご本人の希望されるところなど、把握に努めていますが、希望に沿えていないことが多いのが現状です。 | ○ | 希望に沿えるよう、ご家族の協力等を得て実現したい。 |
| 65 | — | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りや職員からの声かけを行うと共に、リビング、居室など話しやすい場の提供をしている。 | | |
| 66 | — | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している | 面会時間は設けてなく、訪問時にはリビング、居室など要望に合わせて案内し会話を楽しんで頂いている。又、寝具等を準備しており、宿泊可能な体制である。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|----|---|---|-------------------------|--|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 67 | — | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての外部研修、ホーム内勉強会など実施し、身体拘束のないケアに取り組んでいるが、スピーチロックを無意識に行うことがまれにある為、拘束になっていないか、常に確認、意識しながらケアに努めている。 | ○ | 職員同士意識、技術の向上を図り、身体拘束のないケアを今後も継続していくよう努めたい。 |
| 68 | 29 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関の鍵については、家族会で話し合いを持ってもらい、「安全が第一」と全家族より要望があり施錠している。入居者が外出したい様子、希望される場合は止めるのではなく、さりげなく声をかけて一緒に外出するなど、安全面に配慮しながら支援している。 | | |
| 69 | — | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 職員は、入居者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、全員の状況を把握するように努めている。昼夜問わず、所在、様子を確認すると共に状態に合わせて対応している。 | | |
| 70 | — | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 入居者の状態に合わせて保管管理が必要なもの、入居者が使用する際に、注意が必要ものに分けて管理している。例えば、爪切り、はさみなど。 | | |
| 71 | — | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 一人ひとり状態から予測される危険を検討し、未然に防ぐための工夫をしている。例えば、誤嚥のリスクが高い入居者の食事支援や服薬方法や、転倒のリスクが高い方には、大腿骨保護用ショーツを着用して頂いたり起床センサーを設置している。 | | |
| 72 | — | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 急変時マニュアル、勉強会を通じて訓練しているが、全員熟知しているとはいえない。 | ○ | 勉強会など、通じて意識付けを行う。 |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|--|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 73 | 30 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | マニュアルを作成している。 消防署等の協力を得て、定期的に防災訓練を行っている。又、非常用の食料・備品も確保している。 地域のパトロール隊に協力していただいている。 | | |
| 74 | — | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 入居時にリスクについての説明はしているが、身体機能低下によるリスク等は、随時家族へ報告している。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 75 | — | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 看護師、かかりつけ医に報告し、早期発見、予防に努めている。状態を記録に残し情報を共有している。 | | |
| 76 | — | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤情報・チェック表など活用している。副作用に対しては、全員理解してるとはいえない。症状の変化については、その都度看護師に報告している。 | ○ | 勉強会など通じて、理解を深めたい。 |
| 77 | — | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 繊維質の多い食材などを多く採り入れている。体操・散歩・家事活動等身体を動かす機会を個々の状態にあわせて設けている。 | | |
| 78 | — | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 起床時・毎食後に、個々の状態や力に応じた支援をしている。又、定期的に歯科医院(歯科医指導により)にて歯石除去を行っている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 79 | 31 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士により栄養バランスはとれている。水分量については、1日1000~1500mlとっていただけるよう考慮、支援している。又、看護師指示により必要に応じ水分チェック表にて管理、対応している。 | | |
| 80 | — | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 感染症マニュアルに従って実践している。手洗い、うがいの励行やインフルエンザ予防接種など予防に努めている。 | | |
| 81 | — | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 食中毒予防マニュアルに従って、食中毒の予防に努めている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 82 | — | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 玄関、駐車場までの間は、スロープ・手すりを設置し安全に配慮している。また、ホーム駐車場に大き目の看板を設置により認識できる。 | | |
| 83 | 32 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 廊下やリビングなどの共用空間には、花、写真、絵画など、家庭的な雰囲気を有している。五感や季節感を意識的に採り入れられるよう工夫している。 | | |
| 84 | — | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 裏庭に畑・芝生・木・花を植えており、入居者がいつでも出入りできるようにしている。散歩・洗濯を干したりいつでも休憩できるようにベンチを置いている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|--|-------------------------|---|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 85 | 33 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具、仏壇を持ち込んでもらったり、思い出の品、写真など生活習慣を大切にしたいその人らしい居室作りを行っている。 | ○ | 居室作りが不十分な部屋もある為、今後も本人・家族と相談しながら本人が居室で居心地良く過ごせるよう工夫していきたい。 |
| 86 | — | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 換気は窓を開けたり、換気扇にて毎日行っている。外気との温度差がある場合には、温度計と入居者の様子をみながら調節している。空気清浄機、加湿器など必要に応じて活用している。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | | |
| 87 | — | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの移住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。 | | |
| 88 | — | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況にあわせて環境整備に努めている。 | | |
| 89 | — | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 庭に花を植えたり、畑のスペースを確保し、利用者が日常的に楽しみながら活動できるような環境を作っている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | |
|------------------------|----|--|-----------------------|--------------|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | |
| V サービスの成果に関する項目 | | | | |
| 90 | — | ○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんど掴んでいない |
| 91 | — | ○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | <input type="radio"/> | ①毎日ある |
| | | | <input type="radio"/> | ②数日に1回程度ある |
| | | | <input type="radio"/> | ③たまにある |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんどない |
| 92 | — | ○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 93 | — | ○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 94 | — | ○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 95 | — | ○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 96 | — | ○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんど掴んでいない |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | | | |
|------|----|--|------------------|--------------|--|--|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | | | |
| 97 | — | ○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と | | |
| | | | | ②家族の2/3くらいと | | |
| | | | | ③家族の1/3くらいと | | |
| | | | | ④ほとんどできていない | | |
| 98 | — | ○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている | ○ | ①ほぼ毎日のように | | |
| | | | | ②数日に1回程度 | | |
| | | | | ③たまに | | |
| | | | | ④ほとんどない | | |
| 99 | — | ○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている | | |
| | | | | ②少しずつ増えている | | |
| | | | | ③あまり増えていない | | |
| | | | | ④全くいない | | |
| 100 | — | ○職員は、生き生きと働いている | ○ | ①ほぼ全ての職員が | | |
| | | | | ②職員の2/3くらいが | | |
| | | | | ③職員の1/3くらいが | | |
| | | | | ④ほとんどいない | | |
| 101 | — | ○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が | | |
| | | | | ②利用者の2/3くらいが | | |
| | | | | ③利用者の1/3くらいが | | |
| | | | | ④ほとんどいない | | |
| 102 | — | ○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が | | |
| | | | | ②家族等の2/3くらいが | | |
| | | | | ③家族等の1/3くらいが | | |
| | | | | ④ほとんどできていない | | |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・オープン当初から家族会を開催している。年度ごとに代表者を決め、年間行事や運営推進会議には両ユニットの代表者が集まり、職員と共に内容を検討し家族の皆様との架け橋になっていただいている。
- ・誕生会は、一人ひとりその人の誕生日に家族とともにお祝いをしているので、家族との連携がとれている。
- ・地域との交流が盛んである。その中でも1番なのは、夏祭りである。毎年、地域の子供会、町内会有志、家族と合同で開催している。地域の方が多数参加されるため、ホームへの理解が得やすく、散歩等で会ったときは声をかけてくださるようになった。
- ・看護師が常駐しているので、日常の健康管理ができており、かかりつけ医との連携が密に行われているので、早期発見できるので、入院や感染症に罹患することが非常に少ない。